

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ふぁみりえに住む入居者と家族の尊厳や願いを最大限尊重し、その人らしい人生の継続のしえんをさせて頂くというふぁみりえ独自の理念を念頭に置き、地域の方々にもふぁみりえの事を知ってもらえるよう情報発信したり、交流をしたりと、地域で支える街づくりに貢献していくよう理念として掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム長や主任が職時のオリエンテーションや新人研修の他、勉強会などを利用して理念や方針について話し合う場をったり、日々のケアの場面場面や行事、その他の取り組みの中で職員へ示して理念の実践に向けて取り組んでいる。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	定期的に家族向け通信や地域向け通信を発行し、ふぁみりえの取り組みや認知症について情報発信している他、3ヶ月に1回の家族会、2ヶ月に1回の運営推進会議、とにかくきてみてテラス等で家族や地域の方にふぁみりえの理念、方針を常に伝えている。		
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近接している公演やフェンス越しの通りすがりの方へもあいさつや声掛けをしたり、行きつけのスーパーや花屋などへの買い物などの際のあいさつや声掛け、「きてみてテラス」など地域の方に来て頂ける機会をつくっている。		もっと広範囲の方々に参加して頂く。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老入会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	はやめ南人情ネットワークを通して地域住民との交流の機会を得て出かけていたり、老人クラブ主催のふれあい祭りの場の提供、実行委員としての参加、地域の清掃活動、小学校の行事など積極的に参加している。		
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	介護教室や、地域推進会議の開催、絵本教室などの取り組みを行なっている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、改善計画の立案を行なったが7～8割程しかできていない。	○	今日の点検をきっかけに、再度立案し、しっかりと実行していきたい。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回開催しその中で出た防災訓練を前月(H19年1月)実施した。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	当ホームだけでなく市内全体の認知症ケアの向上を目指して常に協働している。また市からの視察研修の受け入れや行事などへの参加も積極的に呼びかけ日常的に情報共有を図っている		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	勉強会を開催し、学ぶ機会をもっているが、まだまだ知識としてできていないが、状況に応じ専門機関に相談している。		
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	小さな変化でも、発見した場合には記録し話し合いをもっている。言葉の問題についてもスタッフ間で注意するようにしている。		
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に時間かけ説明、理解、納得を図り、その後も随時、補足、説明、相談に応じている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	安心介護相談員を受け入れ、入居者が第三者へ会話ができる機会を設けている。		
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	随時又は、定期的に来家時及び電話、メールにて報告、確認をしている。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催し家族同士の意見交換の場を設けている。家族から意見を頂いた場合は、話し合いを設け改善に努めている。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議、ユニット会議、ふぁみりえ会議などを通して職員の意見や提案を聞く場を設けている。また会議の場でなくても日常的に職員間、職員と管理者間、運営者と職員間のコミュニケーションの機会を重視している。	○	出来れば、定期的に面談方式で話し合いができる場面をもってほしい。
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者にあわせたシフトづくりがなされている。宿直を入れることで入居者の24時間の流れをつかんでいる。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフはユニット体制になっているが、他ユニットからのフォローをする場面を作っていることで入居者のストレス、ダメージが少なくなるよう努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	常に人権の尊重や公平性を意識して採用に当たっている。また個々の特徴や個性にも目を向け、介護の持つ専門性や人と人との関係性などを考慮している。職員がただ働くというばかりでなく社会参加や自己実現を図れるような機会作りや動機付けを重視している		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修会、セミナーなど広報を広め参加希望スタッフが参加できる環境をつくっている。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修や法人外の実践者研修など、随時状況に応じた研修トレーニングを受ける機会を設けている。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の事業同士の意見交換や勉強会等にて外部との交流を図っている。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	上司、管理者と話す機会があるものの、ストレス等の緩和そのものの解決には結びついていない。	○	定期的に、上司、管理者と十分に時間をさいて話をできる機会を増やしてほしい。
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年に2回職員の実績を点検し把握している。また運営への積極的な参加、個々の特徴に応じた役割分担、学会発表や先進GHの研修などさまざまな形で動機付けを行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	体験利用や通いの支援を通して、本人との時間をつくり本人の気持ちや不安、意向などを引き出し、向き合えるようにしている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談の段階で家族との話し合いの機会を多く持ち、認知症について理解する機会をつくったり家族の気持ちや不安、意向を十分に聴き、また家族や利用者本人宅への訪問も行っている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談担当部門のソーシャルワーカーとホーム長、管理者、ユニット担当者が話し合いを行い、利用者本人と家族のニーズに応じたサービス提供を行っている		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と協力しあい、体験利用やデイや泊まりの利用などを組み合わせて、入居者や職員となじみの関係をつくり、なじみの場所となるよう対応しながら、利用がスムーズに、本人も安心して入居できるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の暮らしの場面や入居者のアクティビティの場面で、入居者が感情を表現しやすいような場作りや声掛けを行い、入居者の方から学んだ事やしていただいた事は心から感謝の言葉を伝えている。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居前よりコミュニケーションをとり、入居後も日々の生活等をお知らせすることで情報を共有し家族から意見、声も記録におとし、スタッフ間で共有できるようにしている。		入居者を交えてや、入居者の家族同士が話す機会また、じっくりスタッフと家族が話す機会を増やしていきたい。入居者の家や住んでいた環境を知り入居者や家族の気持ちをより汲みとめるようにしていきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族会や旅行を計画し関係をもちやすい環境をつくっている。家族が入居者と過ごす時は、家族が主体的に動ける情報提供をしている。		家族会通信の送付、メールでのやりとりで状況報告を行なっている。
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人への年賀状の送付や、友人来家の歓迎、なじみの美容室へ行けるよう配慮している。遠方に住んでた方や、本人が望まない場合などは疎遠になっている。	○	家族会の案内などを書いて頂いたりすることで関係の継続を行なっていきたい。
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の声かけ、お世話など共に支え合われている。	○	体調の悪い方へのお見舞いなど自然なかたちでペアリングを意識して取り組んでいく。
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	亡くなられた方の墓参りや法事など、関係づくりをしている。一旦退居後も、ふぁみりえに戻って来られるよう契約時より話をしている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活史シートなどを活用し、生活の継続に努め、対話の中からの情報を記録におとし、共有、実践し家族にも相談している。		
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活史、質問リストを渡し把握に努めている。入居後もその方の生活(生活に合わせて)支援をうけなう。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居前の生活リズムが継続出来る様支援を行っている。また、入居後もその方の出来ない事ではなく、出来ることに視点を置き支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	変化があるたびにスタッフ間で話し合っって行動を行なうがケアプランの立案までにはいたっていない。	○	より本人に合わせたケアプランを適宜、立案記入し実行していく。
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に評価を行なうも状態に合わせたプラン、立案までには至っていない。	○	話し合いまで出来ているので、確実にケアプランに記入、実行していく。
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の記録に関しては、詳細に記入している。問題点は記録がケアプランに活用するまでにいたらず。	○	記録に関して（記録のポイント）スタッフ間の意識統一を図る。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	平成18年度から通いや泊まりのサービスが可能となったので、体験利用や入居前のなじみづくりなどに活用している		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域住民、民生委員等いつでも気軽に来て頂くなかで、入居者との関係作り暮らしを感じてもらっている。また、年間行事の中で場の提供をすることでスタッフとも連携を計ってもらっている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の状況、状態に応じて訪問看護、ドクターとの連携を計っている。また、市でのサービスを最大限使って頂けるよう連携をはかっている。	○	介護予防拠点・地域交流センターや小規模多機能ホームが近くに開設されるので、介護保険内サービスに止まらず広く地域資源を活用した支援を行って生きたい
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在までは頻度は少ないが財産管理の問題や友人が身元引受人だったケースもあり、地域包括支援センターと連携し支援に当たっている	○	基本的にグループホームの利用者は認知症であるため判断力低下の状態にあり、権利擁護や成年後見制度の利用や在宅生活利用者の場合は地域との関係作りなど、地域包括支援センターとの連携を重視していきたい
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者個々のかかりつけ医と密に連携をはかり、状況報告をする事で、入居者の状態をドクター、スタッフはもちろん家族も理解している。入居者、家族が、あらゆる選択肢を可能に出来る様支援している。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期的往診の中で、状況の変化を報告し、専門医より治療方法はもちろん、生活場面での工夫アドバイスを受け、支援を行なっている。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	入居者の状態は看護職員が常に把握し、訪問看護との連携をはかる中で、特変時には、常に対応可能な状況である。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	慣れない環境、スタッフの中で出来る限り本人らしさを失わないよう医療機関に情報提供を行なう。また、家族と協力し、早期退院に向けてあらゆる支援を行なう。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りもふくめ、あらゆる可能性を本人家族の主体性を大切にしている。そのための関係機関、全スタッフが連携をおこなっている。必要時には、ドクター、スタッフ、家族でムンテラを行い意識統一をはかっている。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した状態は日々の記録に残し全スタッフ間の連携につなげている。また、入居者、家族の思いを主体に全スタッフ、医療機関一致でケアにあたる。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ケアプランをさらに細かく立案し住み替え先に詳細に情報提供を行う。また、急に移るのではなく、二週間ほど期間をもうけて、通所をしながら、なじみをつくってもらう。本人の生活の継続が出来る様支援している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	守秘義務の中でスタッフが入居者の情報を共有し、入居者に合った、言葉かけ、対応を心がけ支援している。		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常的な声かけ、関わりにおいて入居者の自己決定を最大限に、可能とする事を前提とし言葉の中に隠れている表現も見極め支援している。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にスタッフはよりそい、見守りながら、体調的な部分も念頭において支援しているが、「したい事」状況においては出来ないことおある。	○	日々の暮らしで一人ひとりのしたい事を受け止め、可能にする体制をスタッフがさらに意識していく。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	鏡で自分をみてもらい、身だしなみとして、自分から手がでるのを見守り、使い方等、声かけ行い支援する。なじみの床屋等には、家族との外出として利用して頂いている。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の状態や状況を見て、共に調理片付けを行なっている。時には食べたいものを献立に盛り込み共に買い物にもでかけている。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品は、おおいに楽しんでいただいている。危険がともなう(火の始末)事に関しては、スタッフが常に会話を楽しみながら見守りを行なっている。	○	とはいえ、喫煙時以外でも火に不始末が無いよう注意していきたい
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	それぞれのパターンに合わせた排泄誘導を心がけている。しかし自立した方に関しては(8割程度自立)排泄パターンがつかめていない。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の状況、習慣に応じていつでも入浴可能な状態にしている。また、入浴拒否の入居者に対してはチームプレーを行い1週間以上空かないよう声かけ対応に努めている。		
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	それぞれの状態に合わせ、支援している。不眠が続く場合は、スタッフ内、ドクター、家族も含め相談し対応している。そのつどカンファレンスも行なう。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者それぞれに合わせた場の提供を行なっている。ただし、単発的になっている事も多い。	○	本人のやりたい事が発揮出来る様な場面セッティングや支援をおこなう。
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者には手持ちで払える方、また手元の持っている方は自らその場において出し入れしてもらっている。手元に持っていない方もその場で支払いが出来るように支援している。		
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出来る限り支援を行なうようにしているが、時間帯や職員体制により出来ないこともある。	○	家族や社会資源を利用しての外出支援を行なっていきたい。
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日帰り旅行としてプランに盛り込んだり、結婚式、葬儀に参加できるよう支援している。	○	とはいえ、まだまだ機会は少ないので積極的にアプローチしていきたい
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話に関しては出来るだけ本人にしてもらい、手助けが必要な方はスタッフが間に入り支援している。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	面会時間は設けてなく、訪問があった場合は、職員がいったん対応しその後、あらゆる場所で会話を楽しんで頂いている。必要に応じては泊まりも可能な体制である。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関してはまったくおこなってない。ただし、法の基準としての理解ができていないかは疑問としてある。	○	正しく理解する為の勉強会をきちんと行い、意識統一をはかる。
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中はまったく玄関に鍵をかけることはなく、入居者は自由に行き来できるようにしている。夜間は不審者防衛のために(21:00~7:00)施錠をしている。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜を通してプライバシーに配慮しながら支援している。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	例えばはさみなど一人ひとりの状態に応じて居室内に保管したり使用したりして頂いている。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態に合わせて安全への配慮を行なっている。	○	注意が必要な方に対しては適宜カンファレンスを行う。また、どうしたら危険を回避できるのか勉強会を行う
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全スタッフが行なえるとは言えず訓練を行なう必要がある。	○	正しく理解する為の勉強会をきちんと行う。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域や消防署等の協力を得て防災訓練をおこなっている。	○	継続の必要ある。
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時にリスクについての説明はしているが日々の生活で身体機能低下によるリスクもあるので随時、家族への報告もおこなっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	気がついた際には看護職員もしくは、かかりつけ医への相談はしているが、情報伝達がうまくいかない場合がある。	○	情報共有を密にする。
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全スタッフが熟知しているわけではなく知らないスタッフもいる。薬剤情報はファイリングしている。	○	全スタッフへの意識づけを行なう。
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	本人の体調も考え可能な限り取り組んでいる。	○	しかし、完璧に対応できていないため今後も取り組みを行う必要あり
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	本人の生活習慣に合わせ援助を行っている	○	起床時・就寝時の援助は引き続き行うとともに、自力で歯磨きができない方などには口腔内清潔が保てるよう援助を行っていきたい

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士により栄養バランスは考えてあり、水分も一日1000~1500mlはとっていただけるように工夫をしている。本人の状態も考慮しつつ支援している。	○	しかし十分な飲水量を取れない方もいるので注意していきたい。
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染対策委員会があり、マニュアルにそって対応している。		
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	包丁、まな板など一日使い終わったら消毒をしている。使用前は十分に流水にて洗っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	表札等を置き入りやすい感じに努めている。季節によっては通路脇に花などを飾っている。	○	殺風景になりやすいためきがけて整備を行いたい
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時と場合にもよるが、不快な音光に関しては出さないように努めている。	○	生活観をもっと取り入れ殺風景にならないこと。清潔を常に保つ。
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一空間を利用しソファやテレビ本棚などを置き利用者同士で過ごせる空間を作っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際はできるだけなじみのものを持ってきて頂いたり家具等の位置へも配慮している。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気には気をつけているが、汚物等による臭いが出たり排水溝などから臭いがある。	○	臭い対策をおこなう。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっているものの手すりなどの数が足りていない。(浴室)	○	手すりなどの再検討
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自立している部分に関しては見守りを行なっている。しかし、わかる力と最大限活かして支援しているかは疑問である。	○	日によってわかる力が異なる為、その日の状態にあった支援及び自立して暮らせるよう支援する。
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外回りには畑もあり、野菜の収穫等もおこなっている。天気がいい日などはテラスなどで昼食をとったりしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように		
				②数日に1回程度		
				③たまに		
				④ほとんどない		
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
100	—	○職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどできていない		

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

個々の出来ることに目を向けて、今までと変わらない生活を送れるように支援を行なっている。当グループホームのケア方針に沿った支援を念頭にし実行している。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【 I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ふぁみりえに住む入居者と家族の尊厳や願いを最大限尊重し、その人らしい人生の継続のしえんをさせて頂くというふぁみりえ独自の理念を念頭に置き、地域の方々にもふぁみりえの事を知ってもらえるよう情報発信したり、交流をしたりと、地域で支える街づくりに貢献していくよう理念として掲げている。	○	地域交流の場においてもその人らしく暮らし続けられるようケアを行っていく。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム長や主任が勉強会などを利用して理念や方針について話し合う場をもちたり、日々のケアの場面場面や行事、その他の取り組みの中で職員へ示して理念の実践に向けて取り組んでいる。	○	新人職員に対し理念に基づいた研修プログラムを作成し、それに沿って理念の浸透を図る。及び中堅職員も交えた勉強会等を継続していく。
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ふぁみりえ通信・地域向け通信の発行、家族会後教室の開催、きてみてテラス・はやめ南人情ネットワークでの交流。見学者の受け入れ、地域行事への参加も積極的に行っている。	○	理念の浸透にゴールはないと考えている。今後とも継続して、取り組んでいく。
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	施設に併設したホームである為、隣近所とはあいさつ程度であるが、同じ地域との付き合いはふぁみりえの行事に声掛けして来てもらったり、地域の行事に足を運んだりして日常的な付き合いに努めている。	○	地域の特定の方々との付き合いは日常的になったが、今以上に地域の行事などに足を運び、地域の方にふぁみりえの事を知ってもらいながら、いろんな方と日常的な付き合いができるようにしていきたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老入会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	公園清掃や地域行事に参加する事だけでなく、施設内においても餅つきや防災訓練などの年中行事を行い、地域の方との交流をする機会を作っている。		
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	はやめ南人情ネットワークの事務局として、地域の一員に入り、高齢者の所在不明者が出た場合、同ネットワークの連絡を受け捜索に当たっている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各個人が行ってきたケアやチームケアを見直し、ケアの向上、改善すべき点を活かしていけるよう行っている。全ての職員が自己評価をし、具体的に見直す機会として取り組んでいる。	○	新人職員へ評価する意義を浸透させていく。改善すべきところは実行していく。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成18年5月より、2ヶ月に一度運営推進会議を開催している。ふぁみりえの取組み・活動内容を報告し、参加者の方々より、意見・アドバイスを頂いている。可能な限り入居者も交え、食事会等の交流会を開いている。	○	更に、今以上にスタッフも会議に積極的に参加し、参加者の方々との交流・意見交換を行い、活かして行きたい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	当ホームだけでなく市内全体の認知症ケアの向上を目指して常に協働している。また市からの視察研修の受け入れや行事などへの参加も積極的に呼びかけ日常的に情報共有を図っている	○	左記を今後とも継続していく。
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業や成年後見制度についての勉強会の実施は行っているが、まだまだ理解するには不十分などところがある。	○	勉強会の機会を増やし、理解していき、入居者の方が、これらの制度を活用できるようにしていきたい。
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ふぁみりえの理念・ケア方針に基づいて一人一人を尊重したケアにあたっている。虐待の法律はあるが、理論ではなく、理念の遂行により防止に努めている。	○	今後も継続していくと共に、虐待についての勉強・話し合いをしながら理解を深めていく。
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際してはホーム長、管理者、ユニット担当者が一緒に本人や家族に十分に時間かけ説明、理解、納得、同意を図り、その後も随時、補足、説明、相談に応じている。理念や方針については具体例を挙げて説明している。		

福岡県 グループホームふぁみりえ 地域密着型サービス評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
Bユニット

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中で、入居者や家族より意見・不満・苦情が出た際は伺い、反映できるよう努めている。あんしん介護相談員も定期的に来家され、入居者から意見を聞かれその旨をスタッフへ報告してもらい、意見交換を行いつつ、反映させている。		
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	来家された時に近況・預かり金の残高等報告している。遠方におられなかなか来家することが出来ないご家族へも電話で報告を行っている。また、定期的にふぁみりえ通信を発行し、現状や行事、暮らしぶりやスタッフの異動について報告を行っている。	○	通信以外でも、写真の発送や近況を手紙にしたり、より身近に入居者の方の暮らしぶりを感じて頂けるような取り組みを行っていく。
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ちょっと一言箱を設置しているが活用・周知には到らず。しかし、家族会や来家時に意見があればすぐに反映できるようにユニット内にて伝達・検討し日頃のコミュニケーションを密に取っている。	○	ちょっと一言箱の設置場所の再検討し活用をより充実させていきたい。
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議、ユニット会議、ふぁみりえ会議などを通して職員の意見や提案を聞く場を設けている。また会議の場でなくても日常的に職員間、職員と管理者間、運営者と職員間のコミュニケーションの機会を重視している。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	人員に余裕はないが、通い利用者への対応や、外出・行事他スタッフの人数が多いときがよい時など、柔軟な対応を適宜取っている。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	できるだけ職員の異動を最小限におさえているが、急な応援や異動がおこることに備えて日頃からユニット間の職員の相互交流を行いながら、なじみの関係をつくれるように配慮している。また濃密な人間関係をつくれる反面、それがストレスとなる関係性、マッチングもあるので、職員の異動は入居者へのダメージを考慮しながらも躊躇せずに行っている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	常に人権の尊重や公平性を意識して採用に当たっている。また個々の特徴や個性にも目を向け、介護の持つ専門性や人と人との関係性などを考慮している。職員がただ働くというばかりでなく社会参加や自己実現を図れるような機会作りや動機付けを重視している		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修会、セミナーなど広報し参加希望スタッフが参加できる環境をつくっている。法人全体として人権、ノーマリゼーションの思想を職員への啓発と同時に地域啓発活動に力を入れている		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修や法人外の実践者研修など、随時状況に応じた研修トレーニングを受ける機会を設けている。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の事業同士の意見交換や勉強会等にて外部との交流を図っている。認知症ケア研究会活動を通してネットワーク作りを行っている	○	出来るだけ多くの職員の参加を呼びかけていく。
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	食事会等の親睦会を行い、気兼ねなくコミュニケーションを取る場を作っている共に、スタッフ間で声を掛け合い、一息つく時間をお互いにつくっている。	○	とはいえ、介護のストレスは大きい。特に重度化された方や医療ニーズの高い方への対応時はのストレスは大きいと考えている。常に職員が安心感を持てるように環境整備をしていきたい
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年に2回職員の実績を点検し把握している。また運営への積極的な参加、個々の特徴に応じた役割分担、学会発表や先進GHの研修などさまざまな形で動機付けを行っている。	○	給与などの条件、貢献度、将来性など、職員の努力に対する評価が向上していくことも重要だと考えている。具体的な計画があるわけではないが、それらの運営面の会議には積極的に意見を出していきたい。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	体験利用や通いの支援を通して、本人との時間をつくり本人の気持ちや不安、意向などを引き出し、向き合えるようにしている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談の段階で家族との話し合いの機会を多く持ち、認知症について理解する機会をつくったり家族の気持ちや不安、意向を十分に聴き、また家族や利用者本人宅への訪問も行っている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談担当部門のソーシャルワーカーとホーム長、管理者、ユニット担当者が話し合いを行い、利用者本人と家族のニーズに応じたサービス提供を行っている。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験利用や通いの期間を設け、利用者本人の負担が最小限になるように努めながら、徐々に馴染みの関係を築き上げられるよう取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者お一人お一人の感情を大切にし、共に笑い共に涙し、時には共に腹を立て、人生の先輩として尊い・敬う心を忘れずに接している。時にはご本人と一対一で過ごす時間をつくりじっくりお話を聞いたり、助言をもらったりと、入居者の皆さんに学ばせて頂いている。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の入居者の方への思いを、常に考え又、入居者の方の家族への思いも同じように考え対応させていただいている。また防災対策に積極的に参加して頂いたり、虐待事件の記事などをもとに共に話し合いをしたりしている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族介護教室や日常の報告を継続的に行い、“認知症”への理解、本人が置かれている現状への理解を深めて頂けるよう努めている。又、入居後も認知症になられる前からの関係を継続していける様サポートしている。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうよう、支援に努めている	馴染みの人・物に対し積極的に取り入れている。行事等の機会をとらえ地域のなじみの人を招き、なじみの場所への外出を可能な限りできるようにしている。	○	しかしながら、やはり頻度はまだ少ないので、いろんな機会を作っていききたい。また少々離れた所から入居された方や、離れた場所への入居者の思いに対しアプローチする事であったり、もっともっと馴染みの人・場所を知る努力をしていく必要があると考えている。
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の関係を認識した上で、スタッフが一步ひいて見守る事、出来る範囲を見極める事の重要性を意識して支援行っている。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去した入居者や家族にも家族会やその他ふぁみりえの行事の際には声をかけ来ていただいたりして、関係を保っている。また、亡くなられた入居者の方に対する、スタッフの思いも家族にご理解頂き、お付き合いさせて頂いている。また一周忌などお墓参りを通して関係性を維持している。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での、些細な会話の一言一言に、思いや希望や願いが含まれている。その事を見逃さず、把握することに努めている。また必ずご本人の意思や希望を聞き、わからない場合でも勝手な思い込みで無理強いしないよう心がけている。	○	常にタイムリーな、希望や意向・願いを把握できるように、今後も継続して努めていく必要があると考えている。
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族、又は本人より、生活歴、人生歴等を伺い、これまでしておられた生活がグループホームでも継続できるよう努めている。	○	より入居者の方を知る為に人生史シートをもう一度見直して頂いたり、本人が思い出の場所へ行ってみたい、又はその場所を感じられるような取り組みをしてみたり今後も継続していくようにする。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々記録から読み取ったり、スタッフ間で情報交換を行う中で、把握に努めている。又、本人の日常の会話から読み取る事も多い。一人一人が有する力を発揮して頂けるような場面作りに努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族に留まらず、必要に応じてPTやドクターの意見も参考にしながら介護計画を立てている。しかし、本人の思いや願いが最優先の介護計画を作成している。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度、見直し・評価を行っている。緊急性が強い時には、期間にこだわる事なく、ご本人に必要な介護計画を立てている。	○	しかしながら、課題の変化や本人へのアプローチの面で計画が後、実行が先ということがある。その場合でもミーティングを利用してアプローチのポイントや方針を共有しているが、今後はそのような内容が即反映できるような介護計画の作成に取り組みたい
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報の共有は出来ているものの、実践であったりケアプランへの見直しに今一つ活かされていない現状がある。	○	ケアプランの見直しに反映させていける様にしていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	平成18年度から通いや泊まりのサービスが可能となったので、体験利用や入居前のなじみづくりなどに活用している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	グループホームの行事への地域のボランティアの参加・運営推進会議・防災訓練での消防署の協力・はやめ南人情ネットワーク等地域の方々に認知症を理解して頂けるよう連携しながら活動を行っている。		

福岡県 グループホームふぁみりえ 地域密着型サービス評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
Bユニット

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	現時点では医療保険による訪問看護など限られている。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在までは頻度は少ないが財産管理の問題や友人が身元引受人だったケースもあり、地域包括支援センターと連携し支援に当たっている。	○	まだ始まったばかりと認識している。今後さまざまな機会をとらえて協働できるようにしていきたい。
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望したかかりつけ医を最優先している。入居時にかかりつけ医や緊急時の希望を確認し適切な医療を受けられるよう支援している。家族の意向や状況に応じて受診や往診などの支援を行っている。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科の専門医との関係が入居者のかかりつけ医ということもあり、協力関係は気づけている。また他の精神科医とも協力関係にあり、カンファレンス等での助言や支持を受けている。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護資格を有する職員もおり又、隣接する同法人の看護師、同法人の訪問看護ステーションとも協力を得て、入居者の健康管理に努めている。協力関係にある看護職員との理念やケアプランの共通理解を図っている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院先と連絡を取り、少しでもご本人が混乱されないよう情報提供を行っている。スタッフも出来る限り本人の所へ伺い、不安が最小限になる様努めている。その事が、ご本人の回復を早めると考え取り組んでいる。	○	しかしながら、提供した情報が反映されていない事があり、その点についての関係作りは大きな課題である。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時(契約時)より本人・家族の意思・意向を確認し、“終の棲家”としてのふぁみりえの方針を充分説明している。又、終末期・重度化だけに限らず、小さな変化があった時においてもかかりつけ医他を交え本人の意向に沿えるよう情報の共有を図りサポートしている。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医・Nsともチームケアとして密に連携を図り、本人の状態の変化に応じてその都度話し合いを行っている。又、必要に応じて各医療機関に、短期入院を行う事で早期に状態回復を図る取り組みを行うこともある。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	自宅から移られる際にはなじみの物品を居室へ持ち込み、環境の変化を最小限に努めている。又、入院や他グループホームへ移られる場合においては情報提供を行い、本人を継続してサポートしてもらえるよう努めている。	○	情報提供して終わりではなく、活用されているのか、働きかけていくことも必要。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人を目の前に本人についてのケア等の話はしない様に努めている。日中居室で過ごされたり、夜間施錠して休まれていても、必要以上に所在確認や開錠する事はしないように心掛けている。しかし、まだ不十分な点もある。	○	常に、これでいい、やっていると思うのではなく問題意識を持ってあたりたい。
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	スタッフの声の掛け方や工夫により、自発的な行動や思いにつながれる事を充分に理解した上で支援を行っている。普段の会話からも、何を食べたいか、どこに外出したいかなど聞き出せるように努めている。又、スタッフが一方的に提供するのではなく、ご自分で決めたり、選択の余地を残し、入居者自身で選んでいただく取り組みを行っている。	○	常に、畏敬の念を持って支援していきたい。
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日をその人らしく、過ごすことができる様、ペースだけでなく、その人のその日の体調や思い・気持ちを最も優先して支援を行っているが、業務事由によりスタッフ主導でケアが行われる場面も見られる。	○	もっと一人ひとりの思いや願いを最大限尊重していく。常にその事を意識・頭のすみにおいておく事を、繰り返し繰り返し確認する必要があると考える。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入居者お一人お一人の力の把握をし、力に合わせながら衣類を選んで頂いたり、なじみの美容室に行ってもらっている。	○	本人の希望他どこまで反映されているのか、その人らしさを今後も追及していく。身だしなみ、整容だけでなく、化粧も日常から積極的にして頂き、生活の張り・心の張りへとつながるよう支援していく。
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常的に調理・配・下膳・片付け・台拭き等本人の好みや力に合わせた関わりを持って頂いている。特に、水曜日は昼食メニューを入居者中心に決め、買い物から調理・片付けに至るまで関わってもらっている。	○	3カ月おきに、ユニット会議において取り組みの見直しを行いながら、より入居者の皆様にとって食事を楽しむことができる様、実施していく。
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人ひとりに随時嗜好を尋ねたり、きっかけ作りを行っていき気持ちに合った物が楽しめる様支援している。具体例：八百屋・ヤクルトの訪問販売、飲み物メニュー、お酒、たばこ。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	チェック表の活用・トイレでの排泄を努めている。排泄後の清拭を欠かさず、清潔や爽快感を高めるよう支援している。排泄の希望が出来ない方や、自力で排泄出来ない方の状態の把握と同時に、どこまでがセルフでどこからがヘルプか見極め、羞恥心に最大限配慮しながら、本人の希望に添った排泄ケアを提供できるよう努めている。	○	今現在使用されていない方が今後使用したり失敗したりされた時に、スタッフのアプローチする場合に介護力を軽くする為でなく、本人が失敗を恐れずにいつまでも本人らしく生活出来る様支援する事が目的である事を頭に入れ取り組んでいく。
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	24時間・365日本人が入りたい時にいつでも入ってもらえるようにと考えているが、ケアが必要な方に対しては、スタッフ一人体制の時には難しいのは事実である。ケアが必要な方に対しては、なるべくスタッフが多くいる時間帯に入りたい気持ちになって頂けるようなアプローチをしている。	○	希望を伺い入浴をして頂いているが、入浴を好まない方に対してのアプローチが難しい部分ではある。本人の好きな音楽・歌を歌いながらであったり、お風呂場の環境をもっと楽しめる様に工夫する等、取り組んでいく事を考えている。
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりで入眠の時間帯やトータルの時間が異なる事を充分理解した上でケアにあたっている。室温・湿度の配慮、入眠前迄のリネンへの配慮、日中の過ごし方の把握。又、入床後の訪室の際もプライバシーに配慮した上で、睡眠を脅かさない様努めている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	全ての入居者がアクティビティ・家事等を行う等で楽しんで頂いたり、力を発揮して頂けるよう支援している。また、これまでの生活習慣から、本人が自ら進んで楽しんで行える趣味や嗜好、役割が継続して行える様支援している。	○	入居者の一人ひとりに合った役割・楽しみ事をご本人が自ら興味を持って行えるよう支援していく。その人らしさを見つけ継続していく。
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で財布を所持しておられる方はその中から買い物の支払いをして頂いている。所持が出来てない方に関してはこちらでお預かりしている。	○	所持出来ない方が買い物をされ支払う際にお金を渡してご本人が払っているという実感を持って頂けるよう支援していく。
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望に沿って散歩をしたり、歩行困難な方も車・車椅子を利用してスーパーへ買い物へ行ったり積極的に行っている。	○	外に出られることを楽しみにしていられる方がたくさんおられるので、継続していく事はもちろん、外食、理・美容院の活用。(ご家族の協力を得て)
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご本人の希望の把握に努めているが、希望に沿えていないところもある。	○	入居者のみなさんの希望に沿えるよう・実現していけるよう努力していく。ご家族の協力を得て普段行けない所へ行きたい。
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族→入居者、入居者→家族への電話で話す事は出来ている。手紙・ハガキも希望される方がおられたら書けるよう積極的に支援していく。	○	電話で話されても後に忘れてしまわれることもあり、形に残る手紙・ハガキのやり取りが出来るよう取り組んでいきたい。本人が書かれなくてもスタッフが本人の言葉を拾って代筆させて頂く。
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	馴染みの方々が気軽に訪問して頂ける事は出来ている。居室だけでなく、ホール内ソファやテラスなど、居心地の良い空間・居場所をいくつか提供できるよう、常に心掛けており、その時々に応じて、ゆっくり過ごして頂いている。	○	今後もゆっくと居心地良く過ごして頂けるような空間作りを模索していきたい。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理念やケア方針を理解し、ケアに取り組む事で、身体拘束しないケアにつながっている。また、スピーチロックや薬を使用している拘束になっていないか、常に確認し意識的に行っている。	○	勉強会などで技術の向上を図り、身体拘束のないケアを今後も継続していくよう努める。
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	スタッフが入居者一人一人の力や行動をしっかり把握できている為、鍵をかける必要はない。又、センサーの使用やスタッフ同士の連携(声掛け・アイコンタクト)により、所在確認に努め、自由に過ごしていただいている。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	個人スペース(居室・トイレなど)は、入居者一人一人の空間であると認識し、昼夜問わず、訪室の際には気をつける様配慮しながら、所在確認・安否確認に努めている。	○	行き過ぎになっていないか、アクトオブバランスというケア方針を、充分理解し常に意識しながら、ケアにあたっていく。
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険物(包丁・洗剤)に対しては、マニュアルに添って管理・使用できている。その他の物に対しては、お一人お一人の状態に合わせた設置・管理を行っている。	○	入居者一人ひとりに起こりうるリスクを把握し対応していった上で管理が過剰にならない様にしていく。
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書やヒヤリハットを活用し、起こってしまった事故の原因を探り、次に活かしている。又、緊急時に対するマニュアルもあり、防災訓練の実施や勉強会などを通じて、対応できるようにしている。	○	いかなる場合にも、自己につながる事を意識しながらケアにあたると共に、緊急時対応のスキルを、勉強会などを通して、今後も身につけていく。
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	施設内外における勉強会に参加したり、ミーティングや送り時に万が一に備え意識付けしている。	○	学んできたものを現場に還元していくと共に、全てのスタッフが、冷静に対応できる様、定期的に学ぶ場を設け備えていきたい。

福岡県 グループホームふぁみりえ 地域密着型サービス評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
Bユニット

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災をはじめ、災害時に対する訓練を行い、安全に避難していただく方法を取得している。地域の方々にも協力して頂ける様連絡網を作成し、訓練にも参加して頂いている。万一に備え非常用食料・備品も確保している。	○	訓練の継続はもちろん、避難誘導等を日頃からイメージトレーニングしていく。
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居の時から起こりうるリスクを家族に説明している。リスクを考えた上で入居者の思い・自由を最大限に尊重した対応を取っている。	○	家族とリスクだけ話し合うのではなく、グループホームの方針を更に理解して頂けるよう努めていく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルだけに頼らず、いつもと違う点があれば、ホーム長・Nsに報告し、対応・指示をもらって迅速に対応している。また、かかりつけ医へ連絡するし、早目早目に指示・対応を行い、安心して生活していただけるよう対応している。	○	スタッフが、常日頃から入居者の状態を見る目を養っていくよう努める。
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服薬している薬に対しての病名はわかっているが、副作用に対する理解は全員が理解しているとは言えない。用法・用量については誤薬がないよう確認し服薬をして頂いている。服薬の変更に関してはNsや夜勤明けスタッフより申し送りがある。病状の変化に対してはNsへ随時報告を行っている。	○	副作用に対する理解を深める。今後もミスがないよう確認を行っていく。
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	飲食物の工夫は行っているが、身体を動かす働きかけは少ない。	○	飲食物の工夫は継続し、もっと身体を動かせるアクティビティを取り入れる。トイレに長く座って頂けるような習慣づけを行う。
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	その方の習慣に応じて、毎食ではないが、起床・入床時に声掛けを行っている。場合によっては介助していく。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは、管理栄養士の助言をもらっている。栄養バランスにおいては食材が重ならないようにし、食べる量は配食時に調節している。水分をご自分で摂取することが難しい方は1日の水分量が少ないことが多い。	○	一人ひとりの習慣に応じた支援は出来ているので、朝食にパンを好む方がいればメニューの個別化を図る。習慣になくともその時の気分で臨機応変に対応していく。水分が少ない方へ少しでも多く摂取して頂ける様働きかけを継続していく。
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染委員会やNsよりそれぞれの取り決めやマニュアルがある。手洗い・うがいの励行や、消毒液でテーブルを拭いたり、調理の際の手指消毒、勉強会の参加や申し送り、意識付け等で予防に努めている。	○	スタッフが、感染源になる恐れがある事を認識し、職場以外でも気をつけていく。
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	入居者が口にする物は前日に配達してもらい食材が傷んでいないか等チェックしている。調理用具の衛生管理はマニュアル通りに行っている。	○	食材の使いきり、食材発注の調整をし、今後も発生防止に努めていく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りできるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入居者のなじみの物を配置しているので威圧感はないと思う。家庭的な雰囲気を出すよう、花やウェルカムボードを置いている。入居者の方が安心して出れるようセンサーを付けている。	○	地域の方より意見を聞き取り組んでいきたい。
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下に入居者が書かれた物や写真を飾ってみたり、食卓に季節の花を飾ったりしている。新人スタッフに対し、高齢者・認知症の方が感じている空間を話している。	○	入居者にとって不快な音や光に対しての配慮。どういう音や光が不快にさせているのか再検討する。スタッフも環境の一部であるという意識付けを行っていく。
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い通りに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時々入居者の状況に応じて独りになれる場所や独りでも近くに他入居者を感じられるような空間作りは出来ていると思う。	○	小居間を活かしきれていない。もっと活用出来るようにしていく。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される前にご自宅に訪問させて頂き、馴染みのある物・使い慣れている物等を持参して頂いている。	○	家族と相談・アプローチしながら馴染みのある物や慣れた物を更に持参して頂けるようにしていく。新しい物でも馴染みを感じられるような物を取り入れていくことを意識していく。
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	気をつけてはいるものの、常に中にいることで感覚がマヒしてしまう部分がある。利用者の居室に対しての換気・空調は出来ている時と出来ていない時と差がある。	○	スタッフの意識の統一を図り、むらのない様に努める。また、スタッフの五感をもっと活かし、臭いなどの目に見えない環境面に対応していく。。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の力を見極めて、ハード面で足りない物をスタッフがカバーしている。	○	その日その日の体調の変化によって入居者が出来たり出来なかったりすることがあるので見極めていく。スタッフ間のコミュニケーション・情報交換を密に図る。
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室入り口に表札を掲げたり、トイレの入り口に貼り紙をしてインフォメーションしたり、危険物を管理したり等して防ぎ工夫している。	○	わかる力は変化していくものなので、その時々で対応していく。わかる力を活かしていくにはわからないことを理解していく。
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外周に沿って草木や花が植えてあり散歩がてらに見て季節を感じたりしている。ベランダに出て入居者同士やスタッフと談話したり、天気の良い日は食事をしたりしている。	○	居室内にあるベランダの活用。

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

理念・ケア方針を基に、何事においても入居者の事を第一に考え、スタッフは行動している。また、御家族とも十分にコミュニケーションが取れている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ふぁみりえに住む入居者と家族の尊厳や願いを最大限尊重し、その人らしい人生の継続の支援をさせて頂くというふぁみりえ独自の理念を念頭に置き、地域の方々にもふぁみりえの事を知ってもらえるよう情報発信したり、交流をしたりと、地域で支える街づくりに貢献していくよう理念として掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム長や主任が勉強会などを利用して理念や方針について話し合う場をったり、日々のケアの場面場面や行事、その他の取り組みの中で職員へ示して理念の実践に向けて取り組んでいる。	○	理念や方針についてはもっと職員個々で意義付けする必要がある、そのためには職員同士で日々のケアの中で理念を実践し、入居者がより良い日々を暮らせるよう話し合いながら取り組む。
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	定期的に家族向け通信や地域向け通信を発行し、ふぁみりえの取り組みや認知症について情報発信している他、3ヶ月に1回の家族会、2ヶ月に1回の運営推進会議、とにかくきてみてテラス等で家族や地域の方にふぁみりえの理念、方針を常に伝えている。		
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	施設に併設したホームである為、隣近所とはあいさつ程度であるが、同じ地域との付き合いはふぁみりえの行事に声掛けして来てもらったり、地域の行事に足を運んだりして日常的な付き合いに努めている。	○	地域の特定の方々との付き合いは日常的になったが、今以上に地域の行事などに足を運び、地域の方にふぁみりえの事を知ってもらいながら、いろんな方と日常的な付き合いができるようにしていきたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老入会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りやイベント、公園清掃など出来る限り足を運び、地域の方と交流を行っている。	○	地域に出て入っているもののその機会は限られており、更に地域との繋がりが日常的になるように支援していきたい。
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	人情ネットワークの事務局として地域の一員として入り、誰もが安心して暮らせるまちづくりを一緒に模索している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価表をもとに職員全員で点検を行い、その時点で明らかとなった改善すべき点はユニット会議などで話し合い改善に努めている。また外部評価で見出された課題も同様、改善に向け話し合い実行している。	○	改善に向けて日々行っているものの、十分に改善されていないところもあるため、確実に実行していきたい。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、ふぁみりえの取り組みなどを報告、いろいろな意見やアドバイスを出してもらい、サービス向上に努めている。委員と入居者や家族が交流できる場にもなっている。	○	まだ始まったばかりの会議で、今後も充実した会議内容にし、メンバーにはいろいろな意見を出してもらいながら、ふぁみりえをよりよい所、入居者が安心して暮らせる住まいにしていきたい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	当ホームだけでなく市内全体の認知症ケアの向上を目指して常に協働している。また市からの視察研修の受け入れや行事などへの参加も積極的に呼びかけ日常的に情報共有を図っている。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業や成年後見制度については、専門知識を有する地域包括支援センター職員を招き勉強会を開催して学んでいる。	○	今現在、制度を利用している入居者はいないが、今後制度を利用しなければならない方もでてくると思う。スムーズな制度利用ができるよう、職員は常に制度について勉強していきたい。
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や自主的に学びながら、虐待について学習し、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	○	職員一人一人が今以上に虐待について理解し、意識できるように個人に任せず勉強や話し合う機会をつくりながら、虐待防止に努めたい。
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際してはホーム長、管理者、ユニット担当者が一緒に本人や家族に十分に時間かけ説明、理解、納得、同意を図り、その後も随時、補足、説明、相談に応じている。理念や方針については具体例を挙げて説明している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々のケアの中に入居者の意思を尊重し、本人の表情や行動から嫌がることや好むことを察し、日々努めている。また、あんしん介護相談員が定期的に来家し、入居者が意見をしやすい機会を設けている。また行事や運営推進会議など地域住民との交流の場を通して本人や家族が外部者と触れ合う機会をつくっている。	○	とはいっても充分とはいえない。例えばセンター方式0-1-2を使うなどして利用者の意向や不満などを引き出し運営に反映できるように取り組みたい。
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が来家した時は、最近の様子をお伝えしたり、預かり金の確認等を担当を中心に報告している。また、入居者の急変時や遠方に住んでいる家族には電話にて様子を報告している。また定期的にホーム通信を発行して現状や課題、職員の異動などを報告している。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	マニュアルに従って対応している。入居時の契約書等で十分説明をしたり、あんしん介護相談員の導入、地域の人々の日常的な訪問等で家族が外部者へ意見や不満、苦情を表せる機会を設けている。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議、ユニット会議、ふぁみりえ会議などを通して職員の意見や提案を聞く場を設けている。また会議の場でなくても日常的に職員間、職員と管理者間、運営者と職員間のコミュニケーションの機会を重視している。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の生活スタイルに合わせて出勤時間の調整を行うとともに、職員の人数も考慮している。また、行事参加などまえて日頃がわかっているならば、スタッフ数を調整し、入居者が行事に参加できるよう取り組んでいる。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	このユニットは単独型なので、できるだけ職員の異動を最小限におさえているが、急な応援や異動がおこることに備えて日頃からユニット間の職員の相互交流を行いながら、なじみの関係をつくれるように配慮している。	○	全体をみたときに、どうしても異動はやむを得ないものであると考えている。また一方でなじみの関係を重視しながらも職員のマンネリズムやストレスケアも考慮して入居者へのダメージを最小限に抑えながら職員の相互交流を図っていくが重要だと考えている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	常に人権の尊重や公平性を意識して採用に当たっている。また個々の特徴や個性にも目を向け、介護の持つ専門性や人と人との関係性などを考慮している。職員がただ働くというばかりでなく社会参加や自己実現を図れるような機会作りや動機付けを重視している。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修会、セミナーなど広報し参加希望スタッフが参加できる環境をつくっている。法人全体として人権、ノーマリゼーションの思想を職員への啓発と同時に地域啓発活動に力を入れている。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修や法人外の実践者研修など、随時状況に応じた研修トレーニングを受ける機会を設けている。	○	研修や教育には力を入れているほうであるが、組織的・段階的・計画的な職員育成は今後の課題である。今年度からリーダー教育を組織的・計画的に手がけているが、認知症ケアに関する教育をホーム職員に段階的・計画的に手がけていきたい。
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の事業同士の意見交換や勉強会等にて外部との交流を図っている。認知症ケア研究会活動を通してネットワーク作りを行っている。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	外部との交流の機会、職員間の親睦会など機会は多い。	○	重度化や看取り支援に直面していく中、個々の職員の不安や悩みを聞いたり、24時間365日いつでも相談できる体制をとっていきたい。
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年に2回職員の実績を点検し把握している。また運営への積極的な参加、個々の特徴に応じた役割分担、学会発表や先進GHの研修などさまざまな形で動機付けを行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	体験利用や通いの支援を通して、本人との時間をつくり本人の気持ちや不安、意向などを引き出し、向き合えるようにしている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談の段階で家族との話し合いの機会を多く持ち、認知症について理解する機会をつくったり家族の気持ちや不安、意向を十分に聴き、また家族や利用者本人宅への訪問も行っている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談担当部門のソーシャルワーカーとホーム長、管理者、ユニット担当者が話し合いを行い、利用者本人と家族のニーズに応じたサービス提供を行っている。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と協力しあい、体験利用やデイや泊まりの利用などを組み合わせて、入居者や職員となじみの関係をつくり、なじみの場所となるよう対応しながら、利用がスムーズに、本人も安心して入居できるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の暮らしの場面や入居者のアクティビティの場面で、入居者が感情を表現しやすいような場作りや声掛けを行い、入居者の方から学んだ事やしていただいた事は心から感謝の言葉を伝えている。	○	私たちが知らない入居者の思いはまだたくさんあるため、アクティビティや季節の行事、普段の何気ない会話から入居者の感情を探り、心の支えとなっていきたい。
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が持つ入居者の思いを大切に、入居者の日々の暮らしの支援について一緒に悩み、一緒に喜びと、家族と職員が一緒になって本人を支えていくよう努めている。	○	本人を思う家族の気持ちは心に秘めていることが多いと思うので、その気持ちを少しずつ汲み取り、一緒に悩みを解決し解決し、家族にもっと安心していただけるよう、会話をもって関係を深めていきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	日頃の様子などを家族に定期的に伝えたり、また日々のケアを行う中で家族の協力が必要不可欠な部分は、本人の思いや家族の負担を考慮しながら協力してもらっている。家族会や行事の機会に家族とのいい時間を持てるよう配慮している。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	隣人、友人、知人などの来家などでこれまで大切にしてきたなじみの人との交流は今も続いている。	○	入居とともに少しずつ以前のなじみが薄れていかないよう、なじみの人や場所は途切れないよう支援していきたい。本人を中心として、例えば職場時代の同窓会などを企画したりなど、積極的になじみの関係を再構築する機会をつくりたい。
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	その時にあわせ入居者同士が楽しく過ごせる関係を支援している。食事の際座る位置や団欒時など、配慮している。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去した入居者や家族にも家族会やその他ふぁみりえの行事の際には声をかけ来ていただいたりして、関係を保っている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が一番思っていることを中心にすえたケアプランを作成し、一人ひとりの思いを大事にしている。家族と一緒にゆっくり我が家で過ごすことを希望している入居者に対しては、半日程度帰宅支援を行い家で過ごしていただいたりと、本人の希望に応じて支援している。	○	まだ一人ひとりの思いを実現できていない所もある為、もう一度入居者一人ひとりと向き合い、思いや希望を確認し、実現に向けて例えばセンター方式0-1-2を活用し本人の気持ちを再確認し、支援していきたい。
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にその方のお宅を訪問して、家族から生活の様子を伺ったり、家族にお願いして生活史や生活習慣等の情報をシートに記入してもらっている。また本人からもどのような暮らし方をしていたか等、会話の中から探り、把握に努めている。	○	入居前にお話しさせて頂き把握に努めているものの十分とはいえない為、入居されてからの関係作り、共に暮らしながらの情報収集に努めていきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	センター方式アセスメントシートの情報シートや24時間アセスメントシート、自己資源シートなどを活用し、入居者の現状を把握している。また、アクティビティを通じてまだある力を発揮してもらいながら、できる事を探り支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ユニット会議や日々のケアの中で、また家族の願いや希望、主治医や専門ドクターの意見を参考に、本人主体の介護計画を作成している。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回介護計画の見直し評価を行っている。3ヶ月以内に本人の状態が変化する場合は、その都度ケアプランを見直し、話し合いながら新プランを立てている。		
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々記録にケアプランと付随しながら記録をし、気づきや実践結果を残し、ケアプラン見直しの際に活かしている。	○	まだ日々記録を漠然と残していることもあり、介護計画の実践結果としての記録が少ないので、職員一人ひとりが記録の書き方を学び、ケアに活かせるようにしたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	平成18年度から通いや泊まりのサービスが可能となったので、体験利用や入居前のなじみづくりなどに活用している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ふぁみりえで行っている防災訓練では、消防や地域の方の協力を得て行っており、また小学校や中学校の職場体験の受入や学習発表会などでこちらから足を運んだりと交流を通して普段から連携を取っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	現時点では医療保険による訪問看護など限られている	○	介護予防拠点・地域交流センターや小規模多機能ホームが近くに開設されるので、介護保険内サービスに止まらず広く地域資源を活用した支援を行って生きたい
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在までは頻度は少ないが財産管理の問題や友人が身元引受人だったケースもあり、地域包括支援センターと連携し支援に当たっている	○	基本的にグループホームの利用者は認知症であるため判断力低下の状態にあり、権利擁護や成年後見制度の利用や在宅生活利用者の場合は地域との関係作りなど、地域包括支援センターとの連携を重視していきたい
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望したかかりつけ医を最優先している。入居時にかかりつけ医や緊急時の希望を確認し適切な医療を受けられるよう支援している。家族の意向や状況に応じて受診や往診などの支援を行っている		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科の専門医との関係が入居者のかかりつけ医ということもあり、協力関係は気づけている。また他の精神科医とも協力関係にあり、カンファレンス等での助言や支持を受けている。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護資格を有する職員もおり又、隣接する同法人の看護師、同法人の訪問看護ステーションとも協力を得て、入居者の健康管理に努めている。協力関係にある看護職員との理念やケアプランの共通理解を図っている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入居者が一時的に入院した場合は入居者が安心して過ごせるようこまめに訪問したり、また看護サマリー等で本人の普段の状況や特徴等を伝えている。またできるだけ早期に退院できるよう医療機関と綿密に話し合い退院計画を立てている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や看取り支援の指針をもち、職員、家族、主治医の共通理解を働きかけている。また契約時点で重度化や終末期についての家族と本人の希望を聞いており、そのような時期になった場合、家族、職員、主治医と繰り返し話し合い、確認書を交わしながら本人らしい終末期の迎え方について全員が方針を共有化している。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人の気持ち、家族の気持ちを最大限尊重した上でふぁみりえでは何が何処まで出来るかをかかりつけ医等と共に話し合い支援に取り組んでいる。看取り支援確認書を家族、主治医、職員間で交わす際に対応可能なことと限界があることについて充分話し合っている。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居に際してはケアマネ等と話し合い体験利用や通いや泊りを利用してもらい、十分な情報収集をふぁみりえ独自のアセスメントシートを使って行ったり、他のグループホームへの移動の際も相互交流を図りながら関係者間でダメージを最小限にするように配慮している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの入居者の人格や誇りを傷つけないような接し方、態度、配慮を心がけているが、その場面場面で出来ていない部分もある。	○	記録等で固有名詞等使用せざるを得ない部分もあり、理念や方針の理解を深め全職員がプライバシーの確保について再確認する必要がある。
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々の暮らしの場面で入居者の自己意思の確認、できるだけ自己意思を引き出すような支援を行っている。	○	食事のメニュー決めやおやつの時の飲み物の選択など入居者の自己決定を支援しやすい部分は行ってきているが、一人ひとりがその日をどう過ごすか自己意思を引き出すのは難しくもう少し工夫していきたい。
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしの場面も、外出や行事、アクティビティの際も、入居者のペースを最優先で考え対応している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	起床時はブラシを渡したり、声かけして髪を整えるよう促したり、正月や外出時やその時々によって化粧の支援をしたりと個々の入居者の好みや希望に応じながら個性を大事にしたおしゃれの支援を行っている。また理・美容店など馴染みのお店がある場合は家族との外出の機会となる様に働きかけている。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや片付けなど、入居者の持っている力を活かして頂いている。又個々の入居者に応じて調理方法を工夫したり量を調整しながら提供し、職員も一緒に食卓を囲みながら楽しい食事の支援を行っている。	○	まだ現段階では毎食、毎日とまでは行かないが広告などをみて入居者の方々がその日に食べたいものを買物に出かけ、調理し食べて頂くよう取り組んでいる。
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個々の入居者のに応じて嗜好の支援を行っている。特にタバコに関しては火を取り扱う為、スタッフと一緒に吸ってもらっている。日の管理は防災マニュアルにしたがって行っている。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	できるだけオムツをしないように排泄パターンに応じた声かけをしたり、オムツの種類を検討して漫然とオムツになるのを避けるようにしている。また失禁時はプライバシーに配慮し、速やかに対応している。	○	便座に座る事が難しく、便座での排泄が難しい方もおられるが、できる限り座って排泄できるように工夫しながら行って行きたい。
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望や習慣や好みに応じた個別の入浴支援を行っている。その際は事前にバイタル測定を行って体調の確認をし、変化がある場合には看護師に指示を仰いだりして入浴可否の見極めをしている。	○	入浴拒否が強くなかなか入浴出来ない入居者に関しても、入浴に変わるもの(清拭や足浴)を行ったり、こえかけの工夫をしながら入浴したくなる支援をしていきたい。
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	おおよその入居者の睡眠パターンは把握している。夜間眠れない場合は、温かい飲み物を提供したり、日中の過ごし方を考えながら支援している。日中の外出等で疲労や緊張等がある場合も状態に応じて休息できるように支援している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者個々の生活歴や好み、習慣などを把握しており、料理や裁縫、マージャン、書道、花道など生活の楽しみや出番作り、気晴らしが出来るよう支援をしている。	○	入居者が今までしてきた事を主にアクティビティや出番、役割作りとして行っているが、それが入居者にとって苦にならないよう常に見極めながら取り組んでいきたい。
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時に自分で手持ちの財布から支払ってもらったり、ご家族より預かり金を預り、いつでも好きな時に欲しい物を購入できるよう支援している。	○	本人が買い物をする際はできる限り支払いをしていただき、どの程度やり取りが出来るかを見極めながら見守る。
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所への買い物や公園への散歩、地域の行事やイベント、車を使ってコンサートに出かけたり、近くの小学校の発表会へ行ったり、旅行をしたりと、さまざまな取り組みをしている。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者の希望を知り、家族と共に連絡調整を行いながら、家族行事や仏事、お墓参り、旅行、外食など出来るだけ家族も一緒に出かけられる機会作り、支援をしている。		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者によっては居室内に使い慣れた電話を引いており、いつでも好きな時に家族とのやりとりが出来るようにしていきたい。また職員が家族へ書類を送るときに本人にも手紙を一筆書いてもらったり支援している。	○	手紙を書きたいと思っても目が見えず文字を書きたくなかったり、何を書いたら良いか分からず不安である為、日頃から文字を書いたりしながらいつでも手紙をかけるよう支援していきたい。
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	門扉や玄関をオープンにしいつでも気軽に来家できる様にしている。面会時間も決まっておらず、家族、友人、知人など、いつでも来て頂き、居室や共通スペースでゆっくり時には泊ったり、一緒に食事をしたりと、さまざまな訪問支援を行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理念やケア方針を通じて、身体拘束をしないケアを実践している。また、様々なケースカンファレンスや困難なケースを検討する際も身体拘束をしないケアについて十分話し合いながら取り組んでいる。	○	ちょっとした事が身体拘束へつながることを十分理解し、会議やカンファレンス時も勉強する機会を設けながら、今以上に身体拘束をしないケアを実践していきたい。
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	アクトオブバランスという考え方をもとに、日中は玄関も窓も鍵をかけていない。ドアはドアベルの音やドアの開く音に職員は注意を払い、所在確認に努めながら、入居者には自由に出入りしてもらっている。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ホールからは居室や廊下、トイレが死角となるが、見えないところであっても、気配や行動の察知をしたり、時々居室を訪室し様子を確認しながら所在確認、安全確認を行っている。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意が必要な包丁、洗剤等はマニュアルにしたがって管理、利用しており、所定の場所に保管している。いつでも利用できるよう手洗い石鹸や各居室の洗剤や刃物類は、入居者に応じて設置したまま様子観察を行っている。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時マニュアルを作成しており、必要時に対応できるよう勉強会などで知識を学んでいる。また、月に1回防災点検を行ったり、防災訓練を行い、緊急時に職員が速やかに対応できるよう取り組んでいる。事故防止に就いてはヒヤリハットや事故報告書を活用し防止対策に努めている。	○	事故防止はこれでいいということはないので、何度も勉強できる機会をつくり、日常的なトレーニングを行っていきたい。
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時の対応マニュアルや勉強会などで学び備えている。必要に応じてミーティングなどで注意を喚起したり、万が一の場合の対策について事前に示したりしている。	○	すべての職員が落ち着いて対応できるよう定期的に学習する機会を設け、急変や事故発生時に備えたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地震や火災を想定した防災訓練を行ったり、イメージ訓練をしながら入居者が安全に避難できる方法を会得している。また、災害時に地域の方に協力を得られるよう訓練にも一緒に参加してもらったり、連絡体制を設けている。	○	毎月15日を防災の日と定め常に防災への意識付けをスタッフに徹底している。
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者一人ひとりに起こりうるリスクについて職員も共通認識し、家族にも十分説明を行って本人が安心して生活できるよう、一緒に話し合いながら考えている。また必要に応じてケアプランとしてあげている。	○	認知症の進行や体調の変化によってリスクも変わる為、その都度入居者個々のリスクに対応できるよう話し合い、共通認識を持って対応していく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタル測定はもちろん、入居者の“いつもと何かが違う”と感じる部分があった場合、他スタッフや看護職員に報告し、必要に応じて主治医へ報告相談するなど早目の対応にあたっている。	○	体調の変化や異変の発見については日頃からの継続的な様子観察が必要である。
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についての用法、用量、副作用についてはおおむね理解しており、いつでも薬について確認できるようお薬情報をファイリングしている。また、新しく処方された薬などは各スタッフが目的や副作用などを確認し、服用後の状態変化を注意している。	○	これからも薬について目的や副作用等について学び、入居者の健康管理を行っていきたい。
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘になりやすい入居者には薬や食べ物、運動など本人に合わせて調整を行っている。しかし、税員の排泄パターンをつかんでいるわけではなく、自立している入居者が便秘時対応が遅れる事がある。	○	食事や日頃の運動にて便秘になりにくい体作りを促すとともに、個々の排泄パターンを行っていききたい。
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	入居者個々の力や習慣に応じて歯磨きや入れ歯洗浄、うがいなどを行っているが、入居者の中にはアプローチが難しく充分職員が対応できていないケースもある。	○	本人の気持ちを大切にしつつも、口腔ケアの必要性を説明し、口腔ケアに取り組んでいただけよう、職員もどのようにアプローチするか成功例をもとにノウハウを共有し個々に応じた支援ができるように努める。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の1日の摂取量を表にチェックし、把握している。入居者の食事摂取量に応じた食事量で、本人持ちのなじみの食器で提供している。また、メニューも管理栄養士の助言をもらい、栄養バランスに配慮している。	○	もう一度入居者一人一人の食事量について検討し、必要に応じて提供する器も考えながら提供するようにしていきたい。
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症についてはマニュアルもあり、流行時は感染対策委員会からの対応、予防方法に従って行っている。また、手洗い、うがいの励行やインフルエンザ予防接種など予防に努めている。ノロウイルス対策も独自のマニュアルにて対応している。	○	自ら感染源にならないよう常に予防に心がけたい。また感染が予測される前から計画的な予防対策が必要だと考えている。
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防マニュアルにしたがって、食中毒の発生予防に努めている。特に食中毒の流行する時期は調理用具の消毒や食品の管理を徹底している。	○	食中毒予防について常に学習し、発生防止にこれからも努めたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関近くの花壇に花を植えたり、綺麗な表札、インターフォンの利用しやすさ等で出入りしやすい雰囲気工夫している。	○	施設に隣接していると行くこともあり、家庭的な玄関周りを工夫して作っても、施設的な部分もあるため、装飾品や植物などを利用し、安全でかつ安心して出入りしやすい出入り口を作っていきたい。
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには家庭的な家具や調度品を置いたり、入居者の絵画やその時々季節に合わせた置物、入居者の生けた花などをかざり、できるだけ居心地良く過ごせるよう努めている。	○	テレビなどが漫然とついており、その音声が不快なものとならないよう、利用されていないときなどこまめに消すように心がけている。
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓や台所、和室、テラス横ソファースペースなどにて個々の入居者に合わせた居場所作りを工夫して行っている。	○	入居者個々、その日その時によってみんなで過ごせたり、一人が良かったりするため、職員は本人の様子を見ながら、その時ゆっくる過ごせる場所へお誘いしながら対応する。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や仏壇を持ち込んでもらったり、旅行のお土産で買った思い出の品、写真(アルバム)など人生史や生活習慣を大切にしたいその人らしい居室作りを行っている。	○	居室作りが不十分な部屋もあり、今後も家族と相談しながら本人が居室で居心地良く過ごせるよう工夫していきたい。
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室の臭いやホールの臭いなど時々気になる部分がある為、換気等こまめに行ったりして対応している。また、温度調節も入居者の状態に合わせてこまめに行っている。	○	入居者が不快なく過ごせるよう、居室やホール、トイレなどの臭いには注意し、換気をしたり香りの良い消臭剤などを利用していく。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや段差、浴槽、便座、手洗いの高さ、食卓テーブルと椅子など入居者の身体機能に応じて設備を整えている。	○	今現在は比較的問題なく生活が送れているが、入居者個々の身体機能の変化に応じて見直していく。
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	壁のシミやガラス戸など、入居者の混乱や失敗の原因になれば、その都度対応し配慮している。また、居室の表札やトイレの表示など、場所の間違いや失敗がないよう工夫している。	○	入居者のその時々状況によって混乱や失敗の原因になるものがあれば、その都度検討し、対応していきたい。
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	テラスで洗濯物を干したりする他、お茶や食事をしたり、日向ぼっこをしたりといつでも活用している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

理念、ケア方針を基に、入居者一人ひとりの生活、自分らしくふるまえる暮らしの支援を行っています。また、ふぁみりえが家族の集える場所、地域生活の拠点になるように支援しています。